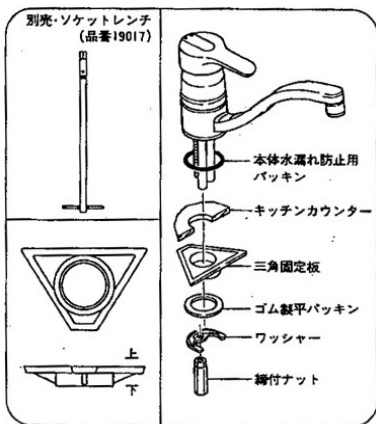


設備工事情報シート	衛 生	Ⅳ－P－1	制 定	2004年4月1日
			改 訂	2015年3月1日
Ⅳ. アフタークレーム	シングルレバー水栓		漏水対策	

1. 目的・概要

別売・ソケットレンチ
(品番19017)



【シンク下固定水栓の代表

(1) 現状把握

最近、キッチン混合水栓の漏水事故がみうけられる。
水栓の形状には大別して下記の2通りある。

①シンク上方固定水栓
②シンク下方固定水栓

上記の形状に対して国内水栓大手メーカーのA社・B社のラインナップは下記の通りである。

A社：一部のシリーズを除き、全て①の形状に移行済み。
B社：全てのラインナップを①の形状に移行済み。

対して海外メーカーのC社・D社等は②の固定方法のみのラインナップである。

また、水栓に付属されている給水・給湯管材質は大別して下記の2通りある。

イ：ブレードホース等のフレキシブル系
ロ：なまし管・めっき管などの硬質系

2. 現 象

(1) 固定方法の違いによる漏水度合

①の形状は、シンクの上方での固定作業となる為、作業性が良く、誰が取付けても同じように取付け可能と思われる。

対して②の形状は、シンク下方での固定作業となる為、体を寝かせながらの取付となり、作業性が悪く、締付けの強さが人により異なる可能性があり、結果として漏水につながるものと考えられる。

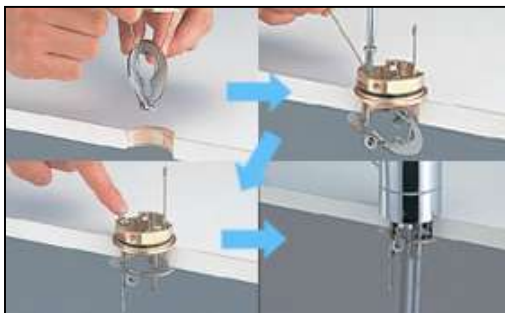
②の固定の際にシンクを裏返しにして取付ける方法を推奨するメーカーもあるが、水栓の工事区分がキッチン工事の場合はともかく、設備工事の場合は、裏返しは出来かねないのが現状である。

(2) 水栓付属の給水・給湯管の材質の違いによる漏水度合

イのフレキシブル系は、パッキン部の回転の力がシンク下の給水・給湯立上り管に伝わらず、品質的に優れている。

ロの硬質系は、パッキン部の回転に伴い、シンク下の給水・給湯立上り管にねじれが伝わり、使用頻度により、ジョイント部の緩みにつながる恐れがある。又、シンク下のジョイント部の固定支持方法により、思わぬ漏水を引き起こす可能性もある。

3. 対 策



【シンク上方固定例】



【シンク下方固定例】

(1) 水栓の仕様による選定

①以外を選定せざるを得ないときは、発注者及び設計者にガタ・緩みによる漏水の可能性を示唆する必要がある。

(2) シンク下配管の固定支持方法の見直し

付属配管が硬質系の場合、給水・給湯配管にねじれが伝わる恐れがあるので、ジョイント部の支持方法には、十分な留意が必要である。

(3) 竣工後の自己防衛

水栓・配管を固定する際の全ての締付け部分に油性マジックにてマーキングを行い、万が一漏水した場合の責任所在を明確化する。

(4) 平行ネジ（Gネジ）の把握

海外メーカーに多く見られるGネジの形状を作業員に十分把握させ、誤った接続方法を防止する。

Gネジ（平行ネジ）
Rネジ（テーパネジ）： パッキン接続

(5) ネジ部の締付け強さ

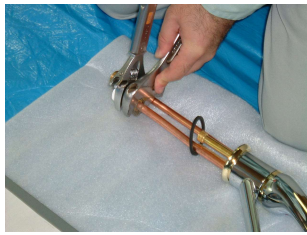
： シールテープ巻き接続

Gネジ接続の場合、パッキン接続となり、作業員の締付け強さにバラツキが生じる。始業前にミーティングを実施し、危険予知を行う。

資 料

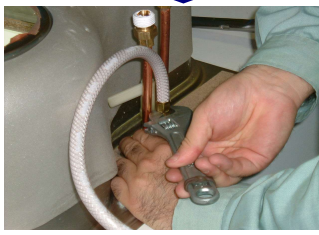
4. シンク下方固定水栓の固定方法

①



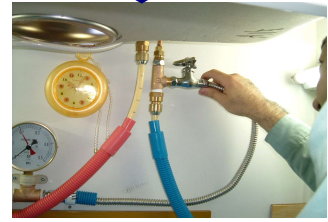
作業しやすい場所にて水栓へアダプター取り付ける。

④



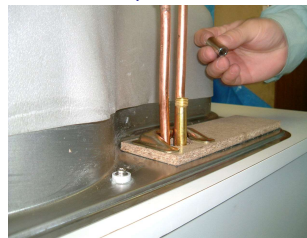
浄水器等の付属ホースを取付ける。専用固定工具は竣工後も取付けた状態が良い。

⑦



丘組みした三方分岐をシンク下配管に固定する。

②



シンクを裏返しにし、水栓固定する。

⑤



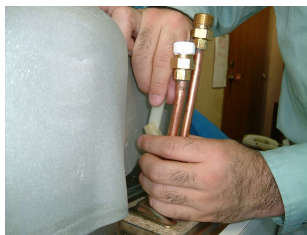
シンクをカウンターに固定し、シンク下配管の接続を行う。

⑧



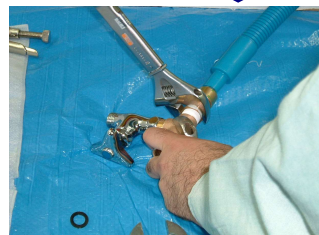
緩む恐れのある水栓と三方分岐間に油性マジックでマーキングを行う。(写真はテープ)

③



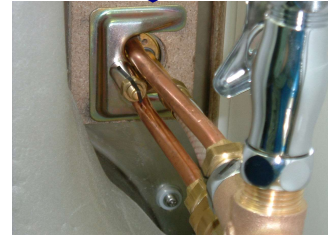
専用取付工具にて馬蹄金具締付ける。カウンター補強が十分に乾いていること。

⑥



三方分岐への固定は、作業しやすい丘組みで行う。

⑨



馬蹄金具固定ナットに油性マジックでマーキングを行う。(写真はテープ)

◆管理上のポイント

- ・馬蹄金具固定ナットはダブルナットが好ましい。
- ・作業①、⑤、⑥で締付トルク管理が出来ればベストである。作業員がトルクレンチを持っていない場合がほとんどであるが締付トルクを示唆するだけでも効果があると思われる。
参考 締付トルク：20～25 N m
- ・マーキングは必ず行う。全住戸マーキングした写真を撮影できれば、漏水した場合の責任の所在が明確になる。
- ・カウンター補強材に湿りがないか確認。湿っている場合はドライヤー等で完全に乾かす。
- ・カンター取付穴は水栓メーカー指示寸法に従う。大きいと隙間から水が浸入し、補強材を湿らせ、漏水につながる。

※本例は参考事例とし、詳細は水栓メーカーとの打合せが必要。

5. 問い合わせ先

東陶機器株式会社
株式会社 I N A X
グローエジャパン株式会社
株式会社喜多村合金製作所
株式会社 K V K
株式会社三栄水栓製作所
ヤンマー産業株式会社
株式会社カクダイ
ジェイトップ・ユーコー

商品技術部
お客様相談センター
営業部
営業本部
営業推進部
お客様相談係
住設営業部
D S 事業部

03-3595-9737
0570-017173
03-3298-9685
0574-54-1136
058-239-3111
03-3683-7496
06-6421-5469
06-6538-1124
03-3552-2011